

## 理事会報告

# IGS 理事会と GeoAmericas 2016(マイアミ)の報告

京都大学大学院地球環境学堂 勝見 武

埼玉大学大学院理工学研究科 桑野 二郎

アメリカ合衆国フロリダ州マイアミビーチにて GeoAmericas 2016 (IGS の第 3 回パンアメリカン地域会議) が 2016 年 4 月 10~13 日に開催されたのに合わせて、IGS の理事会が 4 月 9~10 日に、GeoAmericas 2016 会場の Loews Miami Beach Hotel で開催された。今回は理事全員が出席した。わが国から参加したのは桑野と勝見の 2 名であった。

今回の理事会では強く感じさせられたことが 2 点ある。

まず第 1 点目は、世界の治安情勢に学会運営も無関係ではいられないということである。IGS では会員増や新支部の設置に積極的に取り組んでいるが、政治情勢のため Non-profit Organization (非営利団体) を設立するのが難しい国があり、学会支部設立の障害となっている。さらに、本年 9 月末にはトルコ・イスタンブールでヨーロッパ地域会議 (EuroGeo 6) の開催が予定されているが、昨今のトルコでのテロなどの治安状況に加え、この理事会の直前に EU が難民受け入れに関する方針の変更を打ち出したこともあって、特に欧州の理事からイスタンブール会議の成否に対して懸念の声があがった。理事会ではこの議題は 2 日目の午後に取り上げられた。まず、EuroGeo 6 の実行委員長で IGS 理事でもある Erol Guler 教授から、会議の準備状況について詳細な説明がなされた。15 分ほどの長いスピーチで、丁寧な説明であった。既に 400 編以上の論文のアブストラクトが提出されており、技術展示のブースも埋まっているなど、学術関係を中心に実行委員会の尽力により会議の準備が順調に進められていることが説明された。その後、今から開催地を変更することも含めて、約 1 時間にわたって本件について議論した。自分の周りには会議参加に消極的な人が多い、参加したくても会社が参加を認めてくれない、たとえ開催したとしても参加者が少なければ学会として会議運営上リスクがあるのではないかという意見、治安上問題なのは当該都市に限ったことではなく、例えばパリやモロッコ (次回アフリカ地域会議) などその他の都市とイスタンブールとで本質的に危険度は変わらないという意見などがあつた。今後変化も想定される外的要因を踏まえつつ、判断することが求められる。理事会の時点では会議は予定通り開催すること、しかし今後の情勢の変化も考えられるので、会議不開催などの事態が避けられない場合には、IGS がトルコ支部に最大 75000 ドルのサポートをすることを理事会で決議した。

第 2 点は資産の活用についてである。IGS 本部の会計は全般的に健全であり、資産運用を含めもっと有効に活用すべきとの意見がある。2015 年は各委員会の支出が予算より少なかったことに對しても、予算の執行率について議論があつた。委員会予算の使用は、ビデオの翻訳費用 (Education Committee が計画中)、リーフレットの作成印刷費 (バリア技術委員会が 2015 年作成した)、ワークショップ時の軽食 (補強技術委員会が 2015 年開催した) など各委員会に任されてはいるものの、使いにくいという意見もある。ジオシンセティックスの普及のためには EtE Program (Educate to Educator) や Ambassador Program などの開催も有効だが、これらのプログラムの実施には各支部の協力が不可欠で、支部に意義を理解してもらって活用してもらう必要がある。

EtE Program は、ブラジル、トルコ、中国、オーストラリアなどで計画されているようではある。なお、ジャーナル (Geotextiles and Geomembrans と Geosynthetics International) に関しては、14000 ドルの支出に対して、3500 ドルの収入 (ロイヤルティー) となっているようである。

理事会ではその他に以下のような議題や行事があった。

- イランとペルーからそれぞれ理事メンバーが推薦され認められた。
- オーストリア支部の設置が認められた。また、新しい支部の設置のため、スイス、エジプト、チュニジア、スウェーデン、アルジェリア、モザンビーク、モロッコ、ベネズエラ、コスタリカ、イスラエル、サウジアラビア、ミャンマーなどでアクションが進められている。
- 会員は 2688 から 2800 に増加しており、地域会議でさらに増加が期待されること。
- IGS の新しいウェブサイトが 4 月末に公開予定であること。
- 次々回のヨーロッパ会議の開催地はポーランド、パンアメリカン会議はリオデジャネイロに内定したこと。
- 理事会初日の夜は北米支部の方々との会食であった。理事会が各支部の方々と交流する貴重な機会である。二日目の夜は GeoAmericas 2016 の開会式、特別講演、展示の開会式のあと、Corporate Reception があった。これは学会活動に対する企業の支援に理事会からの謝意を表すものである。

勝見は GeoAmericas 2016 にも参加したので、この紙面で報告させて頂く。関係者に聞いたところでは、参加者は 800 人ぐらいとのことである。技術展示は 95 社で、そのうち 11 社が中国からであった。4 つの基調講演のテーマは CO<sub>2</sub> 排出削減効果 (N. Dixon 教授)、耐久性 (R. Koerner 教授)、沿岸・低地防護 (D. Morris 氏ほか)、舗装 (マーサーレクチャー、J. Zornberg 教授) で、補強・排水・遮水など従来のジオシンセティックスの機能を前面に出したものは少なかった。その他に 9 つのトレーニングレクチャーと約 180 編の論文発表が約 50 のセッションで行われた。会議は IT 化の流れにのり、冊子や USB の論文集は一切配布されず、プログラム冊子の QR コードをスマートフォンや i-Pad で読み取り、Double Douch というアプリをダウンロードするものであった。セッションや会場を確認したり、誰が参加しているのか、誰がどのセッションで何を発表するのかなど、スマートフォンで検索できて便利な一方で、論文は一編一編ダウンロードしなければならず、スマホの小さい画面では読むに堪えず、PC への転送もままならず (考えればできるのだろう) といった状況であった。しかも、肝心の私の論文は手違いで掲載されていなかった。会議組織委員会では、論文の掲載に直前まで四苦八苦しておられたようであり、当日不掲載の論文も複数あったようである。最先端の電腦世界とヒューマンエラーが避けられない人力作業の融合の難しさも感じさせられたが、こういうものは追々改善されていくのであろう。2 日目のレセプションでは、長年アメリカで活躍された J.-P. Giroud 博士がヨーロッパへ帰られるため、その歓送会としていくつかの感謝の挨拶が行われた。

桑野はマイアミを訪れるのは初めてであったが (勝見も)、会場の Loews Miami Beach Hotel はマイアミビーチにある立派なリゾートホテルであった。マイアミは治安が良くないと聞いていたが、ホテルの周辺はビーチリゾートであり、夜も沢山の人がそぞろ歩き、不安は感じなかった。理事会の会議室の外ではプールを挟んでビーチが望め、大勢の水着姿のカップルや家族連れが楽しんでいた。ただ残念ながら理事会初日の土曜日の朝に到着し、理事会翌日の月曜日の朝に帰国ということで、楽しむ余裕はなかった。理事会前の早朝に波打ち際まで行ってみるのが精々だっ

だが、ジャケットを着てそんな場所にいるのはいかにも場違いであった。近くて遠かったマイアミビーチ！

次回の理事会は2016年9月にイスタンブールで開催される EuroGeo6 に併せて開催される予定である。新旧理事交代の理事会となる。



理事会会場の Loews ホテル(中央)



理事会全体会合



Education Committee の様子



北米支部との会食



プログラム冊子左下の QR コードから、アプリダウンロード→プログラム閲覧→論文閲覧と進む



ホテルのガーデンで開かれたレセプション  
(Giroud 博士の欧州移動の歓送の会としても開催)